

第 1 4 期足立区社会教育委員会議第 1 3 回定例会会議録

会 議 名	第 1 4 期足立区社会教育委員会議第 1 3 回定例会会議録
開 催 年 月 日	平成 2 8 年 1 1 月 2 2 日(火)
開 催 場 所	足立区役所本庁舎 南館 6 階 教育委員会室
開 催 時 間	午後 1 時開会 ~ 午後 2 時 3 0 分閉会
出 欠 状 況	委員現在数 3 名 出席委員数 2 名 欠席委員数 1 名
出 席 者	千葉敬愛短期大学学長 明石 要一 氏 日本体育大学名誉教授 成田 國英 氏
事 務 局	足立区教育委員会教育長 定野 司 足立区教育委員会子ども家庭部長 鳥山 高章 教育委員会事務局 子ども家庭部 青少年課 管理調整係 出席職員 青少年課長 寺島 光大 青少年課管理調整係長 広瀬 弘紀 青少年課青少年教育担当係長 村上 長彦 青少年課管理調整係主事 渡辺 菜摘
会 議 次 第	別紙のとおり
会議に付した議題	1 報告書案の検討 2 会議統括 3 その他

定刻午後 1 時 0 0 分・会議開会

司会：寺島青少年課長

本日、社会教育委員会議は最終回を迎えます。教育長はこの後、公務で出なければなりませんので、冒頭ご挨拶をさせていただき退席いたします。よろしくお願いいたします。

定野教育長

今日は、ありがとうございます。この後、都庁で緊急の待機児対策協議会を小池都知事が招集するとのことで、待機児が 50 人以上いる自治体の代表が呼ばれております。今回は、区長代理で行って話をするようになっております。申し訳ございません。

さて、地域の教育力について、先週金曜に幼稚園と公立の子ども園の園長さんが集まる会議に行きまして。國學院大学の神長先生の講演が 1 時間、中教審の答申の話など幼児教育に絞った話がありました。我々は、小・中が中心ですが、面白かったのが、幼稚園や保育園に通わない子どもたちも小学校にあがるまでには、身につけてほしい資質や能力があるとはっきりおっしゃっていました。

これは目からうろこで、幼稚園に通っている園児だけを考えがちです。しかし、通っていない子どもたちに、どこまで幼児教育を施すのかということが少し抜けていたと。要は、小学校に上がったときに能力が揃わない。それをカバーするには、今日の地域力ではないかと感じました。本日もよろしくお願いいたします。これで、失礼致します。

司会：寺島青少年課長

ありがとうございました。

それでは、第 13 回目の定例会、本日最終回となりますが開催させていただきます。それでは明石議長より一言ご挨拶をお願いいたします。

明石議長

本日 13 回目の会議となり、2 年間とかなりの時間をかけてやってきまして、少人数でありながら密度の濃い議論が出来たと思っております。事務局で報告書の素案をつくっていただき、個人的にはよくまとまっていると思います。あとは、この後話をしていきながら詰めていきたいと思っております。場合によっては、メールを通してキャッチボールをして、成案をつくっていききたいと思います。よろしくお願いいたします。

司会：寺島青少年課長

ありがとうございます。本日最終回ということで、司会は事務局でお預かりをさせていただきたいと思っております。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第の 1 番、報告書案の検討ですが、事務局

より説明させていただきます。その後、質疑応答の時間を設けさせていただきます。それでは、広瀬係長よろしく申し上げます。

広瀬管理調整係長

それでは、お手元の資料ですが、次第とホチキス止めの報告書、こちらは先生方に事前にお送りしたものでございます。あと、今日お配りしたのが横書きの全体のイメージ図です。これについては後ほどご説明いたします。

前回、項目のみを挙げさせていただきましたが、それに肉付け作業をして、今までの会議録を改めて見直し、確認いたしました。始めに社会教育の基本的な考え方、これは避けて通れない内容で、基本的な役割と現在の背景、課題、この会議の設置概念を触れさせていただきました。

役割につきましては、文部科学省の中教審の生涯学習分科会から抜粋したものです。文言等、改めて確認いただければと思います。2番が、第14期の社会教育委員会議の設置背景で、全般に現状を述べさせていただきます、「しかしながら…」というところで全般的な課題について触れました。「こうしたなか足立区社会教育は…」こちらは足立区の課題でございます。

最後の部分は、今回社会教育委員会議を設置することについて書かせていただいております。また、補助金審議につきましても、2行程度でまとめました。なお、ご意見等は後ほど承ります。

続きまして、2ページの会議の概要です。こちらは、会議の設置根拠、2番に教育大綱に向けてテーマを載せました。4番は、検討課題の設定についてまとめました。また、5ページには、区長との意見交換会で前半はオリパラについてですが、後半は社会教育に結び付けております。このまとめ方についても、ご意見をいただきます。

9ページが一番の肝となる先生方のご意見、ご提案について項目立てをして、それぞれの内容、方向性をまとめたらどうかというところです。こちらは先生ごとにまとめ、総括コメントを最後に入れました。これは、先生方の主要なキーワードやスローガンとして集約させていただいております。15ページまでまとめております。

16ページは、最後にということで、後ほど先生方からコメントをいただいて、それを事務局でまとめまして、締めくくりの文章にさせていただこうかと思っております。

17ページからは資料編で、先生方のお名前や経歴等、さらに会議の経過や配布資料を記載しました。私からは以上ですが、最初から追って先生方、教育委員会サイドからもご意見賜りたいと思います。

司会：寺島青少年課長

ただ今、報告書案の概要についてご説明させていただきました。全体的なところで、ご意見やご質問等ありましたら、おっしゃっていただけたらと思います。

明石議長

冒頭申し上げましたとおり、非常によくまとまっていると思います。特に各委員のコメントを3つに分けたのは非常に分かりやすいです。要するに、基本的な青少年と家庭教育支援のあり方についてのかたまりと、青少年団体活動・事業についてのあり方、ファシリテータを含めたリーダーの

育成という、動かす人の育成があって、4番の新たな事業提案が大事になると思います。

要するに、これまで3つのことについてやってきたので、基本コースとして、4番は専門コースとして足立区の良さを出していくと捉えるとストーンと落ちます。

総括コメントは上手くまとめていただいている、私は、最後の各先生方の総括コメントを前面に出すといいかと思えます。それぞれ個性があっていい。これがまず1点。次に、例えば10ページの提案は、どれも大切ですが、その中で特に大切なものについて活字を大きくすると読み手が分かりやすいし、凹凸が出て読みやすくなります。成田先生はいかがですか。

成田副議長

明石先生と松田先生が中心に進めていただき、私ができることはなにかと考えたときに、私は渋谷の教育委員会の指導主事から文部省に入ったときに上司から言われました。話下手でもいい。文章はしっかり書けと。私は文部省にいた13年間で学習指導要領から指導書、指導資料の部分で15冊を出しました。その経験を踏まえて、今回これを見させていただきました。これは教育委員会が出すものなので誰が見るかわからない。そういう点で、修正してありますのでよろしく願いいたします。

明石議長

全体をみますと、力量の問題で、2番目の青少年の団体活動、事業の在り方については、3人ともボリュームが小さい。他の1番や4番はあるけれども、そうすると足立区の青少年団体が活動について見たときに、自分たちの活動についてよく見てないなど思われる可能性があります。

村上青少年教育担当係長

確かにこのボリュームをどうするかが課題かと思えます。テーマとして挙げたときに、ボリュームが少ないのは課題が少ないからなのか、あまり重きを置かなくていいからなのか、見たときにどう捉えられるのかというのはあると思います。逆に、行政からの情報提供なり課題提供が足りなかったのかとも思えます。

明石議長

表紙については、これでいいのか、もう少し人々が分かりやすいようにした方が良いでしょう。これはよく言われるところで、誰に読んでもらうのか。行政の場合はこれでいいと思いますが、一般の方に読んでもらうときは、要するにあだちっ子を元気づけるような何かを検討してもらいたいです。

村上青少年教育担当係長

動きのある言葉のほうがいいですね。いわゆる、「～について」ではなく、「～しましょう」のほうがいいと思いました。

明石議長

それは事務局にお任せします。要するに色々な方に見てもらえる、活用してもらえそうな全体をまとめるキーワードがあればいいと思います。

広瀬管理調整係長

では、横書きのイメージ図をご覧くださいませでしょうか。こちらは、先生方からいただいた文言やテーマを当てはめ、一覧で表したものです。これが良いかは別として、キーワードとなる文言を大事にしたいと思います。ここから、表題へつなげることについてはいかがでしょうか。

明石議長

社会教育の第一歩というのは面白い。その次の将来の社会の担い手づくり、というのはどこでも使えるので、例えば、あだちを元気にするとかを続けていくといいのかな。そのほうが、動きがあってインパクトがでます。

成田副議長

私が考えていた一つには、例えば1ページ目の1番、「社会教育の基本的な考え方」の字数や行数はこれが基本になるのでしょうか。

広瀬管理調整係長

これはたたき台ですので、これから如何様にも修正できます。

成田副議長

いきなり、「社会教育の～」と始まる方法もあるし、あるいは明石先生がおっしゃったように多くの方がみるので、例えば「今、世界はグローバル化されていて、とにかく国境を越えて人々や物資などが行き交っている時代です。その時代に、これからたくましく生きていく子どもたちを育てるために、足立区としてはどう考えていけばいいのか。」と言う文が2～3行あって、では、「社会教育は～」という流れにする。このように、世界の動きを簡単に触れたあと、社会教育に入っていく。この流れがあるとさらに良いと感じました。

明石議長

今の意見では、2番の設置背景の4行目の「しかし～」を頭にもってきて、後で、だから社会教育は必要ですと。こうしたなか、「足立区社会教育は～」という流れにすれば分かりやすい。

成田副議長

こういう状況があるだけに、では、「足立区社会教育は」のところ、これから力を入れていきます、資料も作っていきます、などと表現すれば、区民もストンを落ちるのではないかと思います。

村上青少年教育担当係長

今のご意見を聞きますと、グローバルな課題から社会教育、その中で今書かれているのはどちら

かという社会教育全般的なことなので、足立区の社会教育はどうしていくのか、ということも入れ込むようなイメージですか。

成田副議長

例えば、私は世田谷区に住んでいるので、世田谷区の教育委員会から出ている資料を見ますと、冒頭はグローバル化ということで5～6行出ています。そのような形式で社会教育に話が降りていくと分かりやすいと思います。

明石議長

表紙は何色にするのでしょうか。

広瀬管理調整係長

現在のところ考えておりません。

明石議長

週刊誌でヒットする表紙の色があります。一番良いのは、スカイブルーや空色など暖色が多い。また赤系です。なぜか日本はグリーンがヒットしません。表紙にグリーンはない。これは、ジंकクスといわれています。足立区のカラーは何色でしょうか。

鳥山子ども家庭部長

青と緑です。

明石議長

では薄い緑。モスグリーン。せっかく作るのであれば、その辺もこだわったほうがいいと思いました。それから、足立区のマスコットをページの空白部分に入れるなど、若い親にも読んでもらえるようなレイアウトにするべきです。イラストなどがないと、かたい印象が付きまします。

広瀬管理調整係長

先ほど、成田先生がおっしゃった「～である」か、「です・ます」調かで大きく変わるポイントだと思います。

明石議長

「です・ます」調がいいと思います。

成田副議長

「です・ます」調が、やさしく柔らかく、区民にも親しみやすいのではないかなと思います。

広瀬管理調整係長

配布は、区民や青少年育成関係団体など、広くご覧いただきたいと考えております。

成田副議長

教育委員会として出すものすべて、「である」調できたことはないですか。

鳥山子ども家庭部長

大丈夫です。報告書は、先生方のご意見を反映させていただきます。

明石議長

このご時世、「です・ます」調です。「～である」調は、上から目線が強い。最近の学校だよりも「です・ます」調が多い。幼児教育もそうです。

寺島青少年課長

語りかけるような書き方になってきています。

村上青少年教育担当係長

先ほど、明石先生が意見の2番「青少年の団体活動、事業の在り方」で、文量のご指摘をいただきましたが、あらためて、区長との意見交換会はかなりボリュームがあります。この位置づけはいかがでしょうか。整理して別枠で触れてもいいのかと思いました。

鳥山子ども家庭部長

そもそもどういった位置づけで意見交換会を実施したのか。

寺島青少年課長

もともとは、教育大綱の策定に向けた流れの中で、社会教育委員の意見を伺う、というところから設定された経緯です。

村上青少年教育担当係長

だとすると、教育大綱に触れないと少し難しいと思いました。

寺島青少年課長

意見交換会を実施して、どのように活かされたかがないと、せっかくの意見交換会がそのまま終わってしまっていると捉えられてしまう可能性もあります。

成田副議長

例えば、2～3ページで枠内のテーマについてですが、もし、私が足立区民として読むときに、3ページの の3行の文章から以下の6つのテーマが出てきた、と解釈するのでしょうか。

ここは、～ の表現と枠内のテーマ、また もありますが、これは文章にテーマが要約されて

いるのかどうか、その関係はどのように理解されているのでしょうか。

広瀬管理調整係長

これは、会議で出させていただいた資料から抜粋したものです。中には位置づけが異なるものもあるかと思います。

成田副議長

これは、区民もお読みになると思うので、例えば ~ それぞれにテーマがあるが、これはどういう関係なのか、どういうふうに読んだらいいのかと、その辺が分かりやすくまとまっているといいなと思いました。

広瀬管理調整係長

関係性も含めて検討させていただきます。

寺島青少年課長

~ それぞれのテーマに沿って、意見交換や検討を行ってきたということで、矢印で下におりています。ですので、区民の方に分かりやすく伝える見せ方にすると行ったところでしょうか。

成田副議長

はい、そうです。

村上青少年教育担当係長

テーマは、議論の中から出てきたのか、事務局が提示したのか、その辺が見えないということですね。

寺島青少年課長

もう少し分かりやすくまとめていきます。

明石議長

先ほど、村上係長がおっしゃった区長との意見交換会は後ろにもっていくのはどうでしょうか。

寺島青少年課長

取組みとして実施した、というニュアンスですか。

明石議長

17 ページの前にすると流れが分かりやすくいいと思います。

鳥山子ども家庭部長

一応、2ページの2番で「教育大綱に向けて」とコメントがあるので、それを受けて詳細は資料ページへ、というようにしても良いと思います。

村上青少年教育担当係長

区長との意見交換会のページでは、教育大綱について触れていないので、もし、ここに入れるとすれば、大綱について触れる必要があります。

鳥山子ども家庭部長

2ページに記載しているので、「詳細は～ページ参照」、教育大綱の策定に向けた一つの資料として表現するようにしたらどうですか。

広瀬管理調整係長

それでは、ご意見を参考に修正してあらためてご確認いただきたいと思います。

明石議長

イメージ図はどこにいきますか。

広瀬管理調整係長

資料編になると思います。

明石議長

それが分かりやすいと思います。

村上青少年教育担当係長

学校教育の地域連携担当教職員というのを、社会教育委員会議でしてますというようになって大丈夫ですか。

寺島青少年課長

事前に情報は入れておく必要はあるかと思います。

鳥山子ども家庭部長

社会教育の視点から、先生方からこのような意見が出されました、ということでいいのではないのでしょうか。

成田副議長

本文中に、アウトリーチなどのカタカナが出てくると思いますが、区民目線で考えると、分かりづらい表現になると思うので、脚注をつけるなど用語解説をしてもらえるといいと思いました。

広瀬管理調整係長

用語解説については、欄外などの標記を検討いたします。

また、16 ページですが、明石議長からコメントをいただきたいのご意見もありましたが、本日先生方から総括のご意見をいただきまして、事務局で文章化したいと思っております。この後、総括のご意見をよろしく願いいたします。

寺島青少年課長

では、報告書案につきましては、先生方からご意見をいただきましたので修正作業をしていきます。続きまして、次第の2番で会議総括といたしまして、事務局のほうからご説明したいと思いません。

村上青少年教育担当係長

家庭教育支援の方向性について、来年、青少年課で家庭教育を所管する予定です。また、その一環として、会議でもご説明いたしました新しいアウトリーチ型事業の親子食堂に關しまして、ご議論いただきました。しかし、食の提供というところがなかなか簡単にはいかず、引き続き検討課題となっております。

地域と連動しながら、従来型の家庭教育学級や講演会になかなか参加しないいうえ、子どもが朝食を食べずに学校へ行くなどの課題に対して、どのように地域の方と取り組めるのかを考えております。今までのご意見を踏まえながら、今後に向けた方向性として活かしていきたいと思っております。また、先生方には、今までのお話も含め、主に家庭教育支援に関して改めてご意見を伺い、5の最後に、をまとめたいと思いません。

明石議長

新しいことを取り入れることは大切ですので、やっていただきたいです。もう一つ最近言われているのは、ワンストップサービスという福祉行政や教育委員会、社会教育課、保健医療センターなどたくさんあって、どこにいけばいいのか分からない。すると、ハローワークではないですが、子育てや家庭教育の問題は、あそこに行けばすべてつながってくれるようなワンストップ行政と、新しいアウトリーチ型のサービスの提供が大切です。その両輪を足立区がやっていくべきです。

さらに、24 時間オンラインシステムという、24 時間学習することです。出向くのも大切ですが、24 時間子育てに対応できるネットのコンテンツを用意するとか、HP を利用するのか方法は様々ですが、ネットのなかで新しい仲間をつくる。そういった家庭教育支援の第三の空間というか、この三点を考えていただけるといいのではないのでしょうか。

例えば、NTT が 24 時間無料でやっている、ネットで学習し学習集団をつくる。それに加えて、東京大学に集まってスクーリングする。そのなかで、グループをつくりディスカッションする。こういう取組みもいいと思いません。

村上青少年教育担当係長

今の若い世代を考えると、オンライン、オフラインという言葉がありますが、いきなりオフライ

ンをつくらうといっても難しいですが、オンラインがあるとオフラインができるみたいなこともあります。先生のお話を聞いて、まさにそのような感じかと思いました。

実は、青少年課に移管される取り組みで、早寝・早起き朝ごはんの事業は、今までポスターをつくって掲示したり、カレンダーをつくって配布したりと、そこで終わってしまい戻りがない。戻りをつくるために、HPをつくったり記録をつくったりなどのやりとりをすることで、一方的ではなく双方向のやりとりが生まれます。また、地域にお願いをして、口コミで広めていくとか、今までとはちがう青少年課の取り組みをしていこうと考えているところです。

明石議長

オンラインで入っていくよりも、一番効果があるのは、共通の話題を持った方が、ある空間を共有してディスカッションできるのがいい。実は、足立区はこういう場があります、ということで集まってもらえるオンラインとオフラインをうまく組み合わせて、「あだち子育ての場」とか「あだち子育てホーム」などと名づけて口コミで広げていくといい。

成田副議長

私は、また何かできることがありましたら、こちらから出しますので、今日は、ありがとうございました。

鳥山子ども家庭部長

2年間に亘りまして、どうもありがとうございました。この間、保育園の民営化のプロポーザルに行ってきました。園長候補者の方々のヒアリングを行ったのですが、たまたまこちらでやっていたジュニアリーダーの育成研修で、リーダーをやっていた方に来ていただき、ずっと積み上げて取り組んできたことがよく分かりました。

先ほど、来年度、青少年課の組織を少し変更する話をしましたが、今までいただいた意見をきちんと行政として反映していくには、やはり組織を見直す必要があると思ひまして、子ども政策課にある啓発部分を青少年課に移管することといたしました。また、先ほどのアウトリーチを含めた総合的な家庭教育支援を行っていきたいということで、青少年課に事業を動かすことにしました。

これまでいただいたご意見をしっかりと形にしていきたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひいたします。改めまして、2年間にわたりありがとうございました。

午後2時30分・会議閉会